



沼田研究室

体験あります



[災害対応のプロセス化、システム構築、そしてトレーニング]

生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター

International Center for Urban Safety Engineering, ICUS

社会基盤学専攻

情報学環

防災プロセス工学

<http://www.numa.iis.u-tokyo.ac.jp/top.html>

災害対応の現状

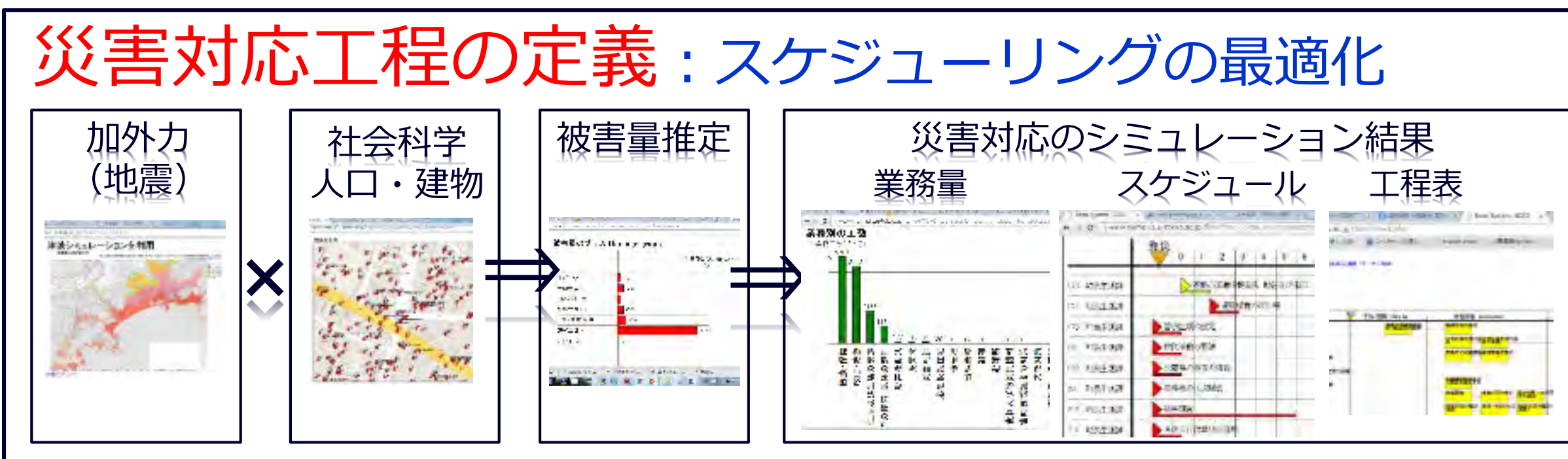
いつ、誰が、どこで、何をやっているのか？

災害対応支援システムBOSSの開発

災害対応工程 × 情報 × 機能配置 ⇒ 効果的な災害対応



Headquarter in Mashiki town during the 2016 Kumamoto Photo by Numada
災害対応の全体工程を設計し、運営できる人材が不足



情報管理：最適な意思決定

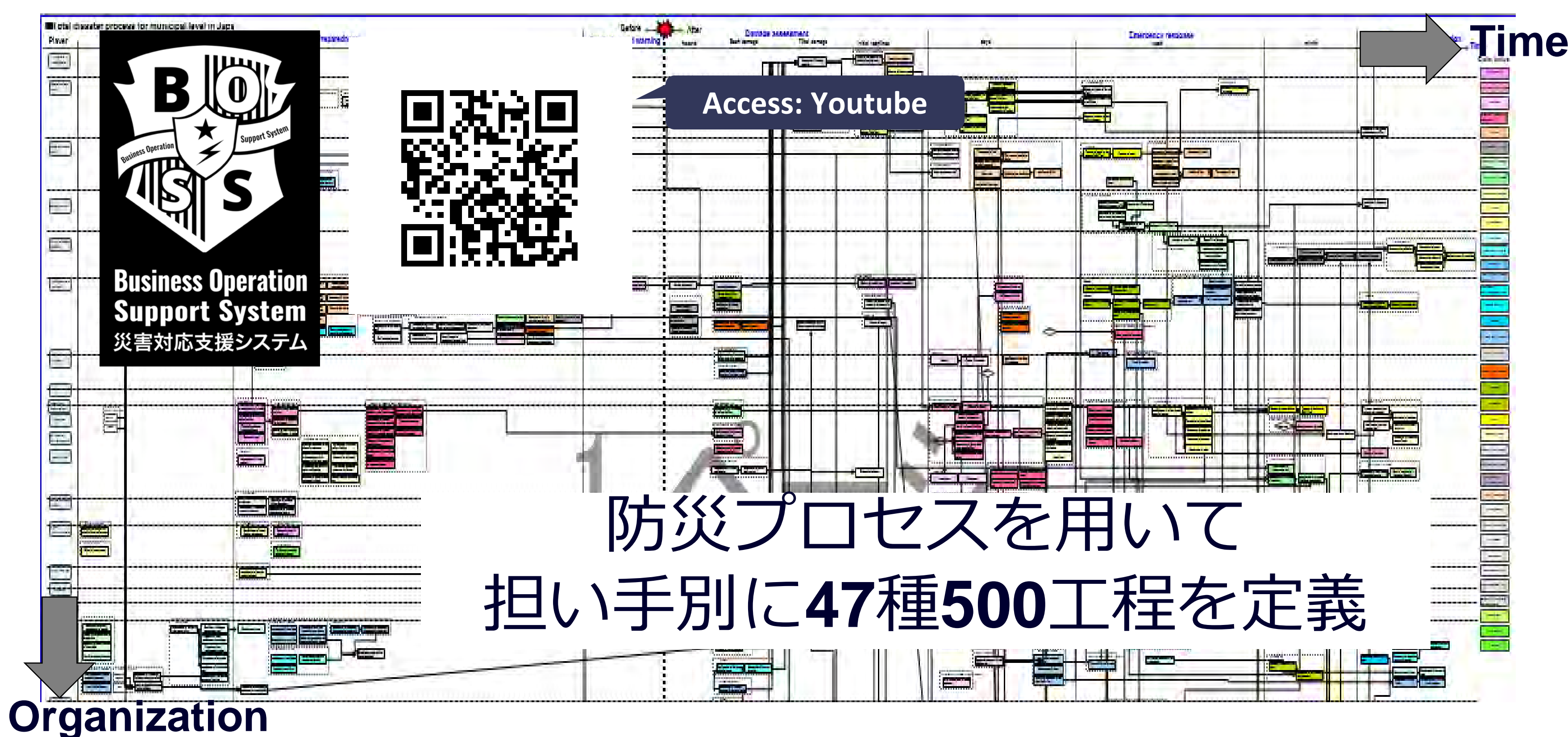
- 情報項目とプロセスの関係定義：ハザード情報、被害情報、対応情報
- 情報収集システム：避難所情報共有システムCOCOA
- 情報収集端末：タブレット端末、PC、モニター

機能配置：最適機能配置

避難場所	ボランティア活動拠点	自衛隊の活動拠点
物資拠点	遺体安置所	瓦礫置き場
仮設住宅の建設用地	災害公営住宅の建設用地	道路との連成解析

BOSSの特徴：災害対応工程の標準化

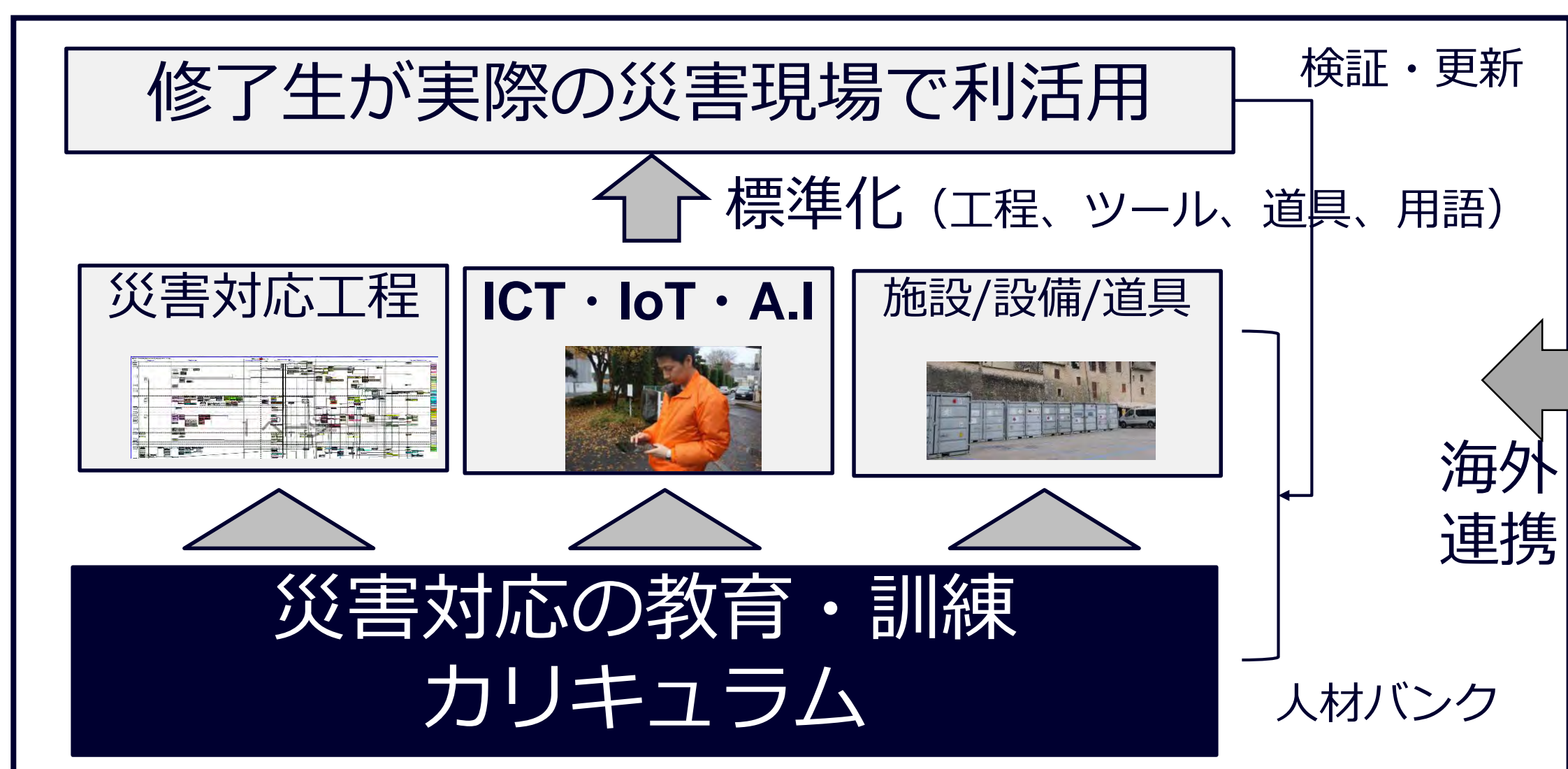
47 kinds of disaster responses



防災プロセスを用いて
担い手別に47種500工程を定義



災害対応トレーニングセンターの構想



Mission
体系的な教育と実践的な訓練を提供することで、被害の抑止・軽減に貢献し、人の生命を教育

Purpose
(1) 災害対応のプロセスを設計できるようになる
(2) 災害対応ができるという自信を持つ

「プロセスを設計できる力」とは、災害対応の基本工程を描いた上で、先を見通し戦略的な対応力（先見性と戦略性）と状況変化への対応力（多様性と柔軟性）を併せ持つものである。参考：第5期科学技術基本計画の基本方針

Program
災害対応を「知り」「設計し」「自信を持つ」

本研究は、東京大学生産技術研究所 生産技術奨励会からご支援を頂いております。

